

## 第2学年 学びのカテゴリー「野菜」



2年1組は、「野菜を育ててどうしたい？」という問いかけから探究が始まった。子供たちは、野菜の日々の変化や成長を見付けては、どのように世話をするとよいか考え、仲間と相談したり、協力したりしながら活動を進めてきた。夏野菜を収穫し、家族に食べてもらい喜んでもらったことから、「今度は全校の仲間に食べてもらいたい」と新たな願いをもち、「給食に出せる野菜にするには・・・」と更なる探究を進めている。

2年2組は、自分の願いをもとに、自分の野菜を育てることから探究が始まった。野菜の変化に喜びを感じながら、世話の仕方を調べては実際に行動し、具体的なものとの関わることのよさを味わってきた。また、収穫した野菜を家族に食べてもらい、喜んでもらえたことから探究したよさを感じた。新たに給食プロジェクトに挑んでいる。全校の仲間のためを思い、安全で美味しい野菜を目指し、自分や仲間と共に歩んでいる。



2年1組

年間指導計画

「学びの 카테고리」：野菜（全140時間）

<p>第2学年の目標</p>	<p>(1) 問題解決力に関わって 願いに合った野菜を栽培する活動を通して、見通しをもちながら試行錯誤を続けたり、実現可能かどうかを立ち止まって考えたりし、やり切ることができるようにする。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって 願いに合った野菜を栽培する中で生まれたジレンマやエラーについて考える活動を通して、必要なことを伝え合い、よりよい考えを生み出し、活動できるようにする。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって 願いに合った野菜を栽培する活動を通して、育てる喜びや人を幸せにする良さに気づき、自他のために行動する態度を養う。</p>											
<p>カテゴリ設定の理由</p>	<p>第1学年では、「遊び」を通して、自分が興味・関心をもった対象に楽しみながら関わり、自分の世界を広げてきた。第2学年では、「野菜」をカテゴリと設定した。「野菜」というコンテンツが、児童にとって身近であり、収穫や食べたときの喜びを味わえたり分かち合えたりできるよさが、児童の発達段階に適していると考えたからである。一人一人が願いをもち、試行錯誤をしながら探究を進めた先に、「できた」「やってよかった」という達成感を味わうことで、探究することのよさを実感する子を生み出したい。</p>											
<p>学びの基盤となる道徳的諸価値</p>	<p>善悪の判断、自律、自由と責任・希望と勇気、努力と強い意志・親切、思いやり・感謝・友情、信頼・相互理解、寛容・勤労、公共の精神・家族愛、家庭生活の充実・よりよい学校生活、集団生活の充実・自然愛護</p>											
<p>学びを構成する要素</p>	<p>人 自分 仲間 家族 地域の人 店の人 農家 給食に携わる人 学校 野菜 畑 土 水 太陽 気候 季節 虫 鳥 自然 育てる 働く 食べる 渡す 売る 伝える 願い 喜び 達成感 充実感 魅力 自己の成長 感謝</p>											
<p>月</p>	<p>4月</p>	<p>5月</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>	<p>10月</p>	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>	<p>2月</p>	<p>3月</p>
<p>単元名(時数)</p>	<p>わくわく野菜大作戦 ～やさいをそだてよう～ (43)</p>					<p>もりもり野菜大作戦 ～ぜん校のなかまのために～ (57)</p>					<p>ほかほか野菜大作戦 ～より多くの人に～ (40)</p>	
<p>主な学習活動</p>	<p>○1年生までのどう生きるかでの学びを振り返り、「どんな野菜を」「誰のために」育てたいのかを明確にする。 ○夏野菜調べを行い、願いや理由を明確にもって、自分が育てたい野菜を決める。 ○願いの実現に向けて、土作り、畝作り、野菜の世話を行う。 ○国語「かんざつ名人になろう」での観察の視点をもとに、野菜の変化を捉える。 ○必要に応じて、情報収集や人に聞く活動を行い、問題の解決と行動を繰り返す。 ○問題解決の過程で生まれた、全体で考えるべき事柄についてグループや全体で話し合い、判断する。 ○収穫や誰かに食べてもらえたこと、自分で食べられたことで願いが実現した喜びを共有する。 ○探究してきたこと(願い、解決方法、うれしかったこと、難しかったこと、どう乗り越えたか)を振り返る。 ○野菜の成長や収穫に向けて、夏休み前や夏休み期間中の世話について考え、実行する。</p>											
<p>想定される●ジレンマ■エラー【道徳的諸価値】</p>	<p>■育てるために、自分から働く必要があるとわかっていながら、継続して世話をすることが難しい。 ■育てるための情報を収集するも、実際に使える情報が何かを選択することが難しい。 ■教えられた解決方法がどうなるかわからず、活用することが難しい。 ■大切に育てている野菜をボール遊びやガラスから守るための方法を考えることが難しい。 ●大切に育てている野菜なのに、育てるために「抜く」ことをやらなければならないこと。 ●自分がたどりたいことをしていくのか、本当に野菜のためになることをするのか。</p>											
<p>人材活用施設</p>	<p>・加納にある野菜の販売店 ・家の人 ・家の人 ・おじいさん、おばあさん ・野菜に詳しい先生 ・3年生や4年生</p>											
<p>教科等との関連</p>	<p>・国語：図書かんたんけん かんざつ名人になろう 春がいつばい 夏がいつばい ・算数：せいのりしかた 2けたのたし算 2けたのひき算 長さのたんい 100より大きい数 かさのたんい 時ごとと時間 ・音楽：かほちゃ ・図工：たのしくうつして ともたち見つけた</p>											

夏野菜の世話と収穫を続け、収穫や食べる喜びを感じる。

2年1組 単元シート		本単元の目標				
単元名		問題解決力	関係構築力	貢献する人間性		
もりもり野菜大作戦 ～ぜん校のなかまのために～ (57)		願いをもとに全校のために野菜を栽培する活動を通して、野菜と向き合い、試行錯誤しながら野菜作りや給食に携わる人と関わり続けたり、実現可能かどうかを立ち止まって考えたりし、やり切ることができるようにする。	給食に出せる野菜にするために必要だと思うことを人に伝えたり、伝えられたことを受け入れたりして、その上で、これまでに調べたことや聞いたことをもとに、行動に移すことができるようにする。	自分の野菜が成長し、給食に提供できたことに、うれしさや楽しさ、喜びを感じたり、学びを振り返り人から認められたりすることで、願いを実現するために大切なことを踏まえ、自分の良さを生かして、願いを実現しようとする態度を養う。		
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夏野菜を収穫した経験や、食べたり食べてもらったりしたことを振り返り、探究したことよさを確かめる。</li> <li>○4月の児童の願いの中の言葉から、全校の仲間のための「給食もりもり大作戦」の方向付けをする。</li> <li>○「全校の仲間のために」どんな野菜を育てたいのか、願いを明確にする。(10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調理室の見学や栄養教諭や調理員さんとの対話を通して思いを知り、野菜との向き合い方を考える。</li> <li>○安全で美味しい野菜づくりを目指すために、専門家と出会い、野菜を育てる際の新たな視点や解決方法を知る。</li> <li>○自分や他者の考えをもとにしながら野菜づくりに取り組み、試行錯誤を続ける。(10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全校の仲間に野菜を食べてもらっただけでなく、思いや過程を知ってもらうために、歩みをまとめ、伝える。</li> <li>○全校からの実際の声を受けて、人のために野菜を育てることや、難しいことに向き合うことよさを実感する。(10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○収穫された野菜が実際には虫に食べられていたため、全て使うことができず、給食で提供する量が足りていなかった事実を知り、その問題をどう乗り越えるかを考え、願いを再構築する。</li> <li>○自分たちの願いを給食に携わる人に伝え、再度給食大作戦に取り組む。(10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「全校」「給食に携わる人」の両方のためになる野菜づくりを目指し、試行錯誤しながら世話を続ける。</li> <li>○野菜を収穫し、栄養教諭や調理員さんに確かめてもらい、これまでの取組の達成感を味わう。(10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまで探究してきたことを振り返る。</li> <li>○冬休み明けの学習の見通しをもつ。(7)</li> </ul>
加筆修正欄						
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏野菜を育ててきた自分の活動に満足感をもち、「全校の仲間のために」という願いをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食に携わる人の思いや、自分たちの育てた野菜を学校給食に出すためには条件があることを理解する。</li> <li>・調べたことをもとに育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育てた野菜をどのように調理するとおいしく食べられるか考える。</li> <li>・給食に自分たちが育てた野菜が出ることを伝える方法を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の成長を観察することで、その変化に気付く。</li> <li>・大きくおいしく育てるための方法を知り、自分の野菜作りに必要なことを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の成長を観察することで、その変化に気付く。</li> <li>・何を大切にしながら育てたかを伝える方法を考える。</li> <li>・収穫や給食に提供できたことに喜びを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの活動が、多くの人の笑顔と自分の喜びにつながったことに気付く。</li> <li>・自分の成長に気付く。</li> </ul>
実際の姿						
■ エラー ● ジレンマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人のために、継続して世話をする必要があるのに、継続して世話をすることが難しい</li> <li>■ 多くの人に食べてもらうためには、考えなければならないことが多くあり、全てを解決することが難しい</li> <li>■ 学級や学年の仲間と協力する必要があるが、意見をまとめることや共に活動することが難しい</li> <li>■ どれだけ丁寧に育てたとしても、廃棄される野菜が生まれてしまい、廃棄を無しにすることが難しい</li> <li>● たくさんつくろうとすると、一つ一つの野菜の世話が疎かになってしまう</li> <li>一つ一つを大切にしようとするたくさんの野菜をつくることは難しい どちらにすればよいのだろう</li> <li>● 作った野菜を給食で食べてもらえてうれしかったが、実際には育てた野菜に問題があったことがわかった</li> <li>本当にこれから大切にしなければならないことは何だろう</li> </ul>					

2年1組 本時案

(1) 目標

給食のために作った野菜が虫に食べられていたことで多くの部分を廃棄していた事実を受けて、給食大作戦についてもう一度見つめ直す活動を通して、願いや自分の探究のあり方を変えていかなければならないことに気づき、今後の活動への願いを考えることができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

これまで探究してきたことをもとにして、これから活動を進めるにあたって大切にすべきことや願いを考える。(希望と勇気、努力と強い意志)

本時 (31/57)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け
<p><b>1 栄養教諭から「給食大作戦」で使用した野菜の量について聞き、本時の課題をもつ</b></p> <p>みんなが一生懸命頑張って育てて、収穫してくれた野菜。実は給食に使えた量は、半分だけでした。野菜をよく見ると、虫によって食べられてしまっているもの、傷んでしまっているものがあつたのです。だから、調理員さんたちと時間をかけて、使えるものを選びました。使えずに処分した分はこれだけあります (写真提示)。どうしても全校のみんなに食べてほしいと思ったので、足りない分については、業者さんに届けてもらって、なんとか給食に出すことができました。一生懸命やってきたみんなだからこそ、このことをしっかりと伝えておかないといけないと思い、伝えさせてもらいました。</p>	<p>○給食に提供することができた野菜の量、使えずに廃棄した野菜の量について栄養教諭から伝えてもらうことから、自分たちの認識 (給食大作戦の満足感) と現実のずれに気づき、探究のあり方考えるきっかけが生まれるようにする。</p> <p>○事実を聞き、その場で感じたことを少しずつ言葉にする姿を認め、子供の思いの広がりが見られるように受け止めながら対話を進めるようにする。</p> <p>○これまでの探究の歩みを肯定的に捉えられるように、これまでの自分たちの取り組みの姿や給食を食べて喜んでいる全校の仲間の様子を掲示に位置付け、「失敗をなんとかする」ではなく、「さらに自分たちにできること」と考えられるように方向付ける。</p>
<p>これから、どのようにかつどうをおこなっていくとよいだろう。</p>	
<p><b>2 栄養教諭の話から自分が感じたことについて話す</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="156 821 795 997" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>&lt;自分たちの認識とのギャップ&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食大作戦は大成功だと思っていたけど、そうじゃなかったんだ。</li> <li>・処分した野菜がもったいないな。せっかく作ったのに……。</li> <li>・これでは、給食大作戦は、失敗じゃないのかな。</li> </ul> </div> <div data-bbox="795 821 1467 997" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>&lt;自分たちの願いに関わって&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの願いは達成できたのかな。</li> <li>・お世話でもっとできるところはなかったかな。まだ甘かったのかな。どうすればよかったんだろう。</li> <li>・これから、もう一度給食大作戦をすることはできますか。</li> <li>・これまでも願いをもち、願いに向かって取り組んできたよ。よい野菜をつくるためにもっと大切にしなければいけないことって何だろう。</li> </ul> </div> </div>	<p>○「何にチャレンジするか」「本当にできるのか」「大切にしたい願いは何か」という視点をもち、子供の発言に問い返していく。</p> <p>○これまで関わってきた人の思いや自分の願いを見える形で整理して掲示しておくことで、自分だけではなく多角的な視点をもちながら本当に大切にしたいことを考えられるようにする。</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="156 1021 795 1189" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>&lt;自分たちの活動に対する肯定感&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・でも、全校のみんなは喜んでくれていたよ。</li> <li>・全校のみんなは喜んでくれていたから、いいんじゃないかな。</li> <li>・でも、僕たちは一生懸命野菜のお世話したよ。全校の仲間は喜んでくれたし、失敗というわけではないよ。</li> </ul> </div> <div data-bbox="795 1021 1467 1189" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>&lt;携わってくれた人たちに関わって&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べられるところと、食べられないところを選んだ森田先生や調理員さんは大変だったと思う。</li> <li>・農家の方の話を聞いて育てたのに、何が悪かったのだろう。</li> </ul> </div> </div>	
<p><b>3 本当に大切にしたいことは何かについて出し合い、願いをつくり出す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これくらいでいいと満足せずに、もっと自分にできることはないかと考えること。</li> <li>・もっとこまめに野菜を見て、変化があれば、すぐに行動すること。</li> <li>・森田先生や調理員さんの給食への思いと同じように、安全のことをもっと考えて取り組むこと。</li> <li>・全校の仲間だけでなく、森田先生や調理員さんたちも笑顔にすること。</li> </ul> <p><b>4 本時の学びを振り返り、もっと大切にしたい自分の願いを書き出す</b></p>	<p><b>目標に迫った姿をどのように見届けるか</b></p> <p>これまでの探究を振り返り、自分が感じたことを、給食に携わる人や全校の仲間の思いや、これまで探究してきたことをもとに考えている。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭の話を受けての対話での言葉やワークシートへの記述から見届ける。</li> </ul>



2年2組

年間指導計画

「学びの 카테고리」：野菜（全140時間）

<p>第2学年の目標</p>	<p>(1) 問題解決力に関わって 願いに合った野菜を栽培する活動を通して、見通しをもちながら試行錯誤を続けたり、実現可能かどうかを立ち止まって考えたりし、やり切ることができるようにする。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって 願いに合った野菜を栽培する中で生まれたジレンマやエラーについて考える活動を通して、必要なことを伝え合い、よりよい考えを生み出し、活動できるようにする。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって 願いに合った野菜を栽培する活動を通して、育てる喜びや人を幸せにする良さに気づき、自他のために行動する態度を養う。</p>												
<p>カテゴリ設定の理由</p>	<p>第1学年では、「遊び」を通して、自分が興味・関心をもった対象に楽しみながら関わり、自分の世界を広げてきた。第2学年では、「野菜」をカテゴリと設定した。「野菜」というコンテンツが、児童にとって身近であり、収穫や食べたときの喜びを味わえたり分かち合えたりできるよすが、児童の発達段階に適していると考えたからである。一人一人が願いをもち、試行錯誤をしながら探究を進めた先に、「できた」「やってよかった」という達成感を味わうことで、探究することのよさを実感する子を生み出した。</p>												
<p>学びの基盤となる道徳的諸価値</p>	<p>善悪の判断、自律、自由と責任・希望と勇気、努力と強い意志・親切、思いやり・感謝・友情、信頼・相互理解、寛容・勤労、公共の精神・家族愛、家庭生活の充実・よりよい学校生活、集団生活の充実・自然愛護</p>												
<p>学びを構成する要素</p>	<p>人 自分 仲間 家族 地域の人 店の人 農家 給食に携わる人 学校 野菜 畑 土 水 太陽 気候 季節 虫 鳥 自然 育てる 働く 食べる 渡す 売る 伝える 願い 喜び 達成感 充実感 魅力 自己の成長 感謝</p>												
	<p>4月</p>	<p>5月</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>	<p>10月</p>	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>	<p>2月</p>	<p>3月</p>	
<p>単元名(時数)</p>	<p>やさいをそだてよう ～わたしがそだてたいやさいを！～</p>					<p>やさいで人をえがおにしよう ～ぜんこうのためにやさいを！～</p>					<p>やさいでできることをやってみよう ～より多くの人にやさいを！～</p>		
<p>主な学習活動</p>	<p>○1年生までのどう生きるかの学びを振り返り、どう生きるかの学ぶ目的を確かめ、自分の目標をもつ ○「どんな野菜を」「誰のために」育てたいのかを明確にする ○自分が育てる野菜を決めるために、調査を行い、理由を明確にした上で野菜を決める ○願いの実現に向けて、土づくり、野菜の世話を続ける ○国語「かんさつ名人になろう」での観察の視点をもとに、野菜の変化を捉える ○必要に応じて、情報収集や人に聞く活動を行い、問題の解決と行動を繰り返す ○問題解決の過程で生まれた、全体で考えるべき事柄についてグループや全体で話し合い、判断する ○収穫や誰かに食べてもらえたこと、自分で食べられたことで願いが実現した喜びを共有する ○探究してきたこと(願い、問題解決方法、うれしかったこと、難しかったこと、どう乗り越えたか)を振り返る ○野菜の成長や収穫に向けて、夏休み前や夏休み期間中の世話について考え、行動する</p>					<p>夏野菜の世話と収穫を続け、収穫や食べる喜びを感じよう</p>	<p>○夏休み前や夏休み期間中の野菜の収穫や食べてもらった、自分で食べた経験を振り返り、探究したことよさを確かめる ○4月の児童の願いの中の言葉から「全校のために野菜を育てるプロジェクト」の実施することを方向付ける ○「全校のために」どんな野菜を育てたいのか、願いを明確にする ○調理室の見学や栄養教諭や調理員さんとの対話を通して、食の安全を守る思いや働くとは何かを考える ○より安全で美味しい野菜づくりを目指すために、外部人材と出会い、新たな解決方法を知る ○自分や他者の考えをもとにして野菜づくりに取り組め、試行錯誤を続ける ○全校に育てた野菜を食べてもらうだけでなく、思いや過程を知ってもらうために、プロジェクトの歩みをまとめ、伝える ○全校からの実際の声を受けて、人のために野菜を育てることや、難しいことに向き合うことよさを体感する ○収穫された野菜が実際に食卓に上るまで、全て使うことができず、給食で提供する量が足りていない事実を知り、その問題をどう乗り越えるかを考え、願いを再構築する ○自分たちの願いを給食に携わる人に伝え、再度プロジェクトに取り組むことの許可を得る ○さらに「全校」「給食に携わる人」の両方のためとなる野菜づくりを目指し、試行錯誤しながら世話を続ける ○野菜を収穫し、栄養教諭や調理員さんに確かめてもらい、これまでの取組の達成感を味わう ○これまでの探究してきたことを振り返る</p>						
<p>想定される●ジレンマ ●エラー【道徳的諸価値】</p>	<p>■育てるために、自分から働く必要があるとわかっていながら、継続して世話をすることが難しい ■育てるための情報を収集するも、実際に使える情報が何かを選択することが難しい ■教えられた解決方法がどういふことなのかかわからず、活用することが難しい ■大切に育てている野菜をボール遊びやカラスから守るための方法を考えることが難しい ●大切に育てている野菜なのに、育てるために「抜く」ことをやらなければならないこと ●自分かたがたやりたいたいことをしていくのか、本当に野菜のためになることをするのか</p>						<p>■買う人が買いたくなくなるものをとを考えていたら、実際に話を聞くと思っていなかったことと違いがあったからその思いを受けて再度検討しなければいけない ■自分の願いも買う人の思いも、販売する人の思いも全て考えた上で取り組むことは難しい ■野菜を育てることも、魅力のPRのどちらもしようとする、どちらかが疎かになっってしまう</p>						
<p>人材活用施設</p>	<p>・加納にある野菜の販売店 ・家の人 ・おじいさん、おばあさん ・野菜に詳しい先生 ・3年生や4年生</p>						<p>・加納にある野菜の販売店 ・家の人 ・おじいさん、おばあさん ・野菜に詳しい先生 ・3年生や4年生 ・給食に携わる人(栄養教諭、調理員、食品を運搬する人) ・附属小中学校の仲間や先生 ・農家</p>					<p>・加納にある野菜の販売店 ・家の人 ・おじいさん、おばあさん ・野菜に詳しい先生 ・3年生や4年生 ・2年生の仲間 ・販売に携わる人 ・給食に携わる人(栄養教諭、調理員、食品を運搬する人) ・附属小中学校の仲間や先生 ・農家</p>	
<p>教科等との関連</p>	<p>・国語：図書かんたんけん かんさつ名人になろう 春がいっぱい 夏がいっぱい ・算数：せいりりしかた 2けたのたし算 2けたのひき算 長さのたんい 100より大きい数 かさのたんい 時くくと時間 ・音楽：かぼちゃ ・図工：たのしくうってつて ともちだ見つけた</p>						<p>・国語：メモをとるとき こんなの見つけたよ そうだんのにってください 秋がいっぱい おもちゃの作り方をせつめいしよう おにごっこ ・算数：三角形と四角形 かけ算 かけ算九九づくり 長いものの長さのたんい ・音楽：だっさパーティー ・図工：音づくりフレンズ わくわくおはなしゲーム パタパタストロー</p>					<p>・国語：わたしはおねえさん 冬がいっぱい 楽しかったよ、2年生 すてきところをつたえよう ・算数：1000より大きな数 分数 はこの形 ・図工：たのしかったよ ドキドキしたよ</p>	

2年2組 単元シート		本単元の目標				
単元名		問題解決力		関係構築力		貢献する人間性
やさいで人をえがおにしよう (57)		願いをもとに全校のために野菜を栽培する活動を通して、野菜と向き合い、試行錯誤しながら野菜作りや給食に携わる人と関わり続けたり、実現可能かどうかを立ち止まって考えたりし、やり切ることができるようにする。		給食に出せる野菜にするために必要だと思うことを人に伝えたり、伝えられたことを受け入れたりして、その上で、これまでに調べたことや聞いたことをもとに、行動に移すことができるようにする。		自分の野菜が成長し、給食に提供できたことに、うれしきや楽しき、喜びを感じたり、学びを振り返り人から認められたりすることで、願いを実現するために大切なことを踏まえ、自分の良さを生かして、願いを実現しようとする態度を養う。
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夏野菜の経験を振り返り、探究したよさを確かめる。</li> <li>○次の野菜づくりに向けて、畑の準備を進める。</li> <li>○4月の児童の願いの中の言葉から「全校のために野菜を育てるプロジェクト」の実施することを方向付ける。</li> <li>○どんな野菜を育てたいか、願いを明確にする。(10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調理室の見学や栄養教諭や調理員さんとの対話を通して、食の安全を守る思いや働くとは何かを考える。</li> <li>○より安全で美味しい野菜づくりを目指すために、外部人材と出会い、新たな解決方法を知る。</li> <li>○自分や他者の考えをもとにして野菜づくりに取り組み、試行錯誤を続ける。(10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全校に育てた野菜を食べてもらっただけでなく、思いや過程を知ってもらうために、プロジェクトの歩みをまとめ、伝える。</li> <li>○全校からの実際の声を受けて、人のために野菜を育てることや、難しいことに向き合うことのよさを実感する。(10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○収穫された野菜が実際には虫に食べられていたため、全て使うことができず、給食で提供する量が足りていなかった事実を知り、その問題をどう乗り越えるかを考え、願いを再構築する。</li> <li>○自分たちの願いを給食に携わる人に伝え、再度プロジェクトに取り組む。(10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「全校」「給食に携わる人」の両方のためになる野菜づくりを目指し、試行錯誤しながら世話を続ける。</li> <li>○野菜を収穫し、栄養教諭や調理員さんに確かめてもらい、これまでの取組の達成感を味わう。(10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの探究してきたことを振り返る。</li> <li>○冬休み明けの学習の見直しをもつ。(7)</li> </ul>
加筆修正欄						
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏野菜を育ててきた自分の活動に満足感を持ち、「全校の仲間のために」という願いをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食に携わる人の思いや、自分たちの育てた野菜を学校給食に出すためには条件があることを知り、よりよいものを創り出そうとする思いをもつ。</li> <li>・調べたことをもとに育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育てた野菜をどのように調理するとおいしく食べられるか考える。</li> <li>・給食に自分たちが育てた野菜が出ることを伝える方法を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の成長を観察することで、その変化に気付く。</li> <li>・大きくおいしく育てるための方法を知り、自分の野菜作りに必要なことを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の成長を観察することで、その変化に気付く。</li> <li>・何を大切にしながら育てたかを伝える方法を考える。</li> <li>・収穫や給食に提供できたことに喜びを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの活動が、多くの人の笑顔と自分の喜びにつながったことに気付く。</li> <li>・自分の成長に気付く。</li> </ul>
実際の姿						
●ジレンマ ■エラー	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人のために、継続して世話をする必要があるのに、継続して世話をすることが難しい</li> <li>■多くの人に食べてもらうためには、考えなければならないことが多くあり、全てを解決することが難しい</li> <li>■学級や学年の仲間と協力する必要があるが、意見をまとめることや共に活動することが難しい</li> <li>■どれだけ丁寧に育てたとしても、廃棄される野菜が生まれてしまい、廃棄を無にすることが難しい</li> <li>●たくさんつくろうとすると、一つ一つの野菜の世話が疎かになってしまう</li> <li>一つ一つを大切にしようとするとかくさんの野菜をつくることは難しい どちらにすればよいのだろう</li> <li>●作った野菜を給食で食べてもらえてうれしかったが、実際には育てた野菜に問題があったことがわかった本当にこれから大切にしなければならないことは何だろう</li> </ul>					

2年2組 本時案

(1) 目標

給食のために作った野菜が虫に食べられていたことで足りなかった事実を受けて、プロジェクトについて再度考える活動を通して、より切実性のある願いを見いだすことができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

探究の過程で生まれた問題や願い、自分たちの姿をもとにして、本当に大切な願いとは何かについて考える。(希望と勇気、努力と強い意志)

本時 (31/57)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け
<div data-bbox="170 501 1469 555" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>これからのやさいづくりをどうする？</p> </div> <p><b>1 栄養教諭から給食プロジェクトで使用した野菜の量について聞く</b></p> <div data-bbox="170 603 1469 774" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2年生のみんなが一生懸命頑張って育てて、収穫してくれた野菜。実は給食に使えた量は、これだけなんです。野菜をよく見ると、虫によって食べられてしまっているもの、傷んでしまっているものがあったんです。だから、調理員さんと一緒に時間をかけて、使えるものを選んだのがこれです。どうしても全校のみんなに食べてほしいと思ったので、足りないものについては、業者さんに届けてもらって、なんとか給食に出すことができたんです。一生懸命やってきたみんなだからこそ、このことをしっかりと伝えておかないといけないと思って伝えさせてもらいました。</p> </div> <p><b>2 栄養教諭の話から自分が感じたことについて話す</b></p> <p>○森田先生の話聞いて、あなたはどう感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校に食べてもらって喜んでもらえていたと思っていたのに、実際は足りていないことを知って、悲しい。</li> <li>・調理員さんや森田先生にも、自分たちの野菜のために迷惑をかけてしまった。</li> <li>・食べてもらえたし、喜んでもらえたけれど、全部自分たちの野菜で給食に出したかったから、願いとは違っている。</li> </ul> <p>○本当はもっとどうなりたかったのか。何が問題なのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全て自分たちの野菜になるように、給食に出せる野菜がたくさんになるとよかった。</li> <li>・自分たちの願いは、自分たちの野菜で食べる人、調理員さんや森田先生に喜んでもらうことだから。</li> <li>・でも、そのためには虫が問題。野菜を食べられないようにしなければならない。</li> </ul> <p><b>3 これから何にチャレンジするのかを考える</b></p> <p>○たとえ大変であっても、もう一度プロジェクトにチャレンジしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大変であってもこれまでよりもよく活動して、本当に全校や調理員さんたちに喜んでもらえるように活動したい。</li> <li>・大変なことだからこそ、チャレンジすると、自分たちが成長することにもきっとつながる。</li> <li>・虫対策をどれだけしても、虫を全て無くすことは難しい。給食に出せると考えると無理なのかもしれない。</li> </ul> <p><b>4 本当に大切にしたいことは何かについて出し合い、願いをつくり出す</b></p> <p>○大変なこともありながらも、たくさんの人の笑顔を生み出すために、自分たちが本当に大切にしたい願いは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べるみんなのことを考えて、大変なことでも自分でやりきれるようにすること。</li> <li>・大変なことだからこそ、とことん調べて人と出会って、問題を明らかにできるようにすること。</li> </ul> <p><b>5 本時の学びの振り返り、自分の大切にしたい願いを自分の言葉で書き出す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの野菜でみんなに喜んでほしい。だから、大変であってもそこに向かっていけるようにしたい。</li> </ul>	<p>○給食に提供することができた野菜の量について栄養教諭から伝えることから、自分たちの認識と現実の違いに気づき、探究のあり方を考えるきっかけが生まれるようにする。</p> <p>○事実を聞き、その場で感じたことを少しずつ言葉にする姿を認め、子どもの思いの広がりが見られるように受け止めながら対話を進めるようにする。</p> <p>○事実を失敗と捉える児童に対し、「本当にこれまでの取り組みは失敗だったのか」を問いかけることで、「よりよい活動にするために」考える場であることを確かめる。</p> <p>○「何にチャレンジするのか」「実現できるかどうか」「問題や難しさは何か」「これまでの願いと今の違いは何か」といった問いかけから、探究を多面的に振り返ることができるようにする。</p> <p>○伝えられた事実を乗り越えることは簡単ではないことに気付いた上で、大変なことに立ち向かうことができるかどうかを問うことで、それぞれの探究に対する考えが明確になるようにする。</p> <p>○「本当に大切にしたい願い」や「どのように解決するのか」について、この時間だけで答えを出すことを急がない。</p> <div data-bbox="1491 1262 2074 1417" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>目標に迫った姿をどのように見届けるか</b></p> <p>探究を振り返り、理想と現実の違いに気づき、切実性のある願いを見出している。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話の言葉やワークシートの記述から見届ける。</li> </ul> </div>